

# 安吾って!?

安吾を知る最初の一歩

前期 2024年9月5日(木) — 11月5日(火)

後期 11月7日(木) — 2025年1月9日(木)

ほんぽーと新潟市立中央図書館 2F  
特別コレクション室

坂口安吾遺品資料、約70点を二期に分けて展示

## 関連事業

講演 「安吾のふるさと」

坂口綱男 (写真家・坂口安吾長男)

とき 11月16日(土) 13:30~15:00

ところ ほんぽーと新潟市立中央図書館 3F 研修室2

募集人数 30人 (応募者多数の場合抽選 11/8に当落結果を通知)

申込み方法 二次元コードより 代表者氏名、連絡先、同伴者氏名を入力  
(代表者含め5名まで申込み可)



休館日: 9/13(金)、10/2(水)、10/11(金)、11/6(水)、  
11/8(金)、12/4(水)、12/13(金)、12/29(日) ~ 1/3(金)

入場無料

開館時間 月曜から土曜 10:00 ~ 20:00  
日曜、祝日 10:00 ~ 17:00

主催:新潟市、財団法人新潟市文化振興財団

# 出品目録「安吾って!？」

新潟市立中央図書館 2F 特別コレクション室

前期 2024(令和6)年 9月 5日[木] - 11月 5日[火]

No.	種類	作者名	作品名	年	出版社	備考
1	文房具		坂口安吾専用原稿用紙			満寿屋製
2			パーカー 万年筆/シャープペンシル			
3			パイロット 万年筆(國光会製)			三千代から贈られた蒔絵の万年筆
4			鉛筆 トンボ8900			2B 筆入れ、消しゴム
5			白磁書鎮			南川潤氏より贈られた書鎮
6			卓上オイルライター			
7	愛用品		三つ揃い(背広・チョッキ・ズボン)			
8			開襟シャツ			
9			ステッキ(木製)			長さ:87.5cm
10			旅行鞆(茶皮革)			長さ:48.0cm
11	蔵書	新村 出 編	言林	1949年	全国書房	
12		コデルロス・ド・ラクロ	危険な関係 (下)	1947年	創元社	伊吹 武彦 訳
13		坂口 五峰	北越詩話 上・下	1918、19年		
14		坂口 献吉 編	五峰餘影	1929年		
15	自筆原稿	坂口 安吾	田舎のメインストリート	1954年		未定稿 ペン書き (複製)
16		坂口 安吾	桐生通信	1999年	筑摩書房	坂口安吾全集 14巻
17	初版本等	坂口 安吾	黒谷村	1935年	竹村書房	新潟市立中央図書館 所蔵
18		坂口 安吾	炉返夜話集	1941年	スタイル社出版部	新潟市立中央図書館 所蔵
19		坂口 安吾	日本文化私観	1943年	文體社	
20		坂口 安吾	二流の人	1947年	九州書房	
21		坂口 安吾	白痴	1947年	中央公論社	
22		坂口 安吾	いつこへ	1947年	真光社	
23		坂口 安吾	逃げたい心	1947年	銀座出版社	
24		坂口 安吾	いのちがけ	1947年	春陽堂	
25		坂口 安吾	吹雪物語	1947年	新體社	
26		坂口 安吾	欲望について	1947年	白桃書房	
27		坂口 安吾	不連続殺人事件	1948年	イブニングスター社	新潟市立中央図書館 所蔵
28		坂口 安吾	ジロリの女	1948年	秋田書店	
29		坂口 安吾	墮落論	1949年	銀座出版社	
30		坂口 安吾	安吾巷談	1950年	文藝春秋新社	
31		坂口 安吾	信長	1953年	筑摩書房	
32		坂口 安吾	わが人生観	1955年	筑摩書房	
33		坂口 安吾	保久呂天皇	1955年	大日本雄弁会講談社	
34		坂口 安吾	真書太閤記	1955年	河出書房	
35		坂口 安吾	安吾史譚	1955年	春歩堂	
36		坂口 安吾	金銭無情	1956年	東方社	
37	資料	頼 尊 清 隆	闇の中の安吾さん	1968年	冬樹社	『定本坂口安吾全集』月報3
38		江 口 清	在りし日の安吾	1968年	冬樹社	『定本坂口安吾全集』月報4
39		檀 一 雄	作家論(坂口安吾論)	1969年	冬樹社	『定本坂口安吾全集』第7巻
40	パネル		坂口家系譜	/		
41			坂口仁一郎・献吉・安吾	/		
42			秋葉区大安寺付近地図	/		
43			坂口安吾評・思い出	/		

§ 新潟市立中央図書館所蔵以外の作品資料は、すべて新潟市所蔵・坂口安吾遺品資料

坂口 安吾 さかくち・あんご 1906(明治39)年 - 1955(昭和30)年

新潟市中央区西大畑町に生まれる。1931(昭和6)年「風博士」「黒谷村」を発表、これを牧野信一が絶賛し、文壇デビューとなる。

1946(昭和21)年「墮落論」「白痴」が敗戦後混迷する人々に衝撃を与え、一躍流行作家となり、次々作品を発表した。

1955(昭和30)年群馬県桐生市の自宅で脳出血のため逝去。48歳。新潟市秋葉区大安寺の坂口家の墓所に眠る。

主な作品:「日本文化私観」「風と光と二十の私と」「桜の森の満開の下」「不連続殺人事件」「信長」「安吾巷談」「安吾新日本地理」ほか。